

かいぼりで捕れた生きものたち

～薬師池の生きものずかん～

今回のかいぼりで捕獲した生きものの結果です。11月3日のイベント「薬師池かいぼり 生きもの調査」で捕獲された生きもののほか、その後の浚渫作業などで捕獲された生きものも含んでいます。

在来種

モツゴ
13054 匹



※救出作業を優先するために途中で数えるのを中止しました。実際にはこの数の数倍くらいいたと思われます。

外来種

アジア大陸原産
アオウオ 2 匹



北米原産
ブルーギル 1013 匹



国内外来種
ゲンゴロウブナ 7 匹



国内外来種
ビワコオオナマズ 1 匹



トウヨシノボリ
5 匹



ナマズ
1 匹



ゲンブナ
1 匹



ニホンスッポン
4 匹



アブラハヤ
1 匹



アジア大陸原産
ソウギョ 1 匹



北米原産
ミシシippアカミミガメ
88 匹



国内外来種
スマチチブ
210 匹



ももとは川の下流や河口に生息。近年、内陸部の池やダム湖に持ち込まれています。

国内外来種って何？

国内に分布はしているが、人間によって本来の分布域ではない地域へ持ち込まれた生きもののこと。
例えば、ゲンゴロウブナは琵琶湖の固有種ですが、釣り目的のため全国に持ち込まれてしまっています。

コイ 268 匹



北米原産
アメリカザリガニ
1 匹



中国大陸・朝鮮半島原産
クサガメ 25 匹



最近の研究で外来種であることがわかりました。

アジア大陸原産
ミナミイシガメ
1 匹



こんな生きものも...

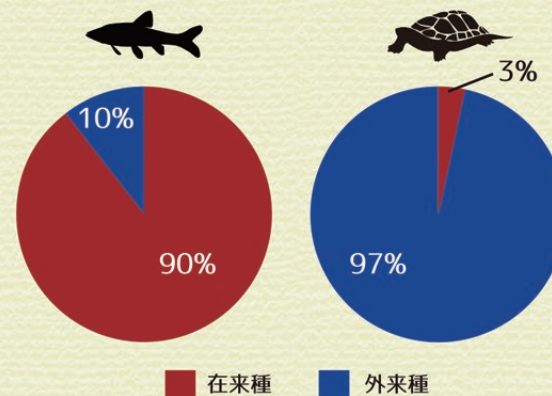


ニホンイシガメとクサガメの交雑個体(ウンキュウ)

捕獲結果のまとめ

魚類が 14563 匹、カメ類が 119 匹、甲殻類が 2218 匹捕獲されました。魚類は、在来種が 90%、外来種が 10% と在来種の方が多かった結果となりました。在来種を捕食するオオクチバス(フラックバス)がこの池にはいないので、在来種が残っていたのだと考えられます。しかし、同じくらいの影響力をもつブルーギルが外来種の中で 67% を占めていました。在来種が大きく減少する前に、ブルーギルを池から取り除いたことは大きな成果です。

一方、カメ類は外来種が優占しており在来種はわずか 3% でした。外来種の中で最も多かったのはミシシippアカミミガメで 77% を占めていました。甲羅の大きさが 20cm 以上の大きな個体が大半でした。



生きものを放さないで！

外来種問題は人間が引き起こしています。「飼いきれないから自然に放す」ことは、元々すんでいた生きもののバランスを壊してしまったり、病気を持ち込んでしまったりします。生きものを飼うときは、その生きものの特徴や飼い方、寿命などを調べた上で、最後まで責任を持って飼育しましょう。

外来生物被害予防三原則

入れない・捨てない・拡げない